

生涯現役

昆 正助(旧一回生)

このたび母校一回生(旧制)として記念すべき創立七〇周年を迎えるにあたり、卒業以来六六年のささやかな歩みを振りかえり、ご依頼を受けた寄稿の責を果たしたいと思えます。

私、母校の石桜精神を自分の将来の指針として身につけ、昭和六年三月卒業、同年四月岩手医学専門学校(現、岩手医科大学)に入学、昭和一〇年三月医専第四期生として国家試験も無事合格、晴れて医師として地域社会の医療と福祉の面に少しでも貢献すべく昭和一三年一月二五日現住所に昆小児科医院を開業。平成六年三月三一日閉院するまで、私なりに地域医療につくして参ったものでございます。

開業当初は戦中の荒廃の時でございましたが、地域の皆様方、関係各位の温かいご支援を賜りながら大過なく半世紀に及ぶ医療活動を続けて参りました。

思えば医師としての六十年の歳月は、私なりに非常に感慨深いものがありますが、しかし齢八十路(現、満八十三歳六カ月)を過ぎました頃から、めだつて高齢に依る心身の衰えが感じられ、医業に従事する者として、あやまちを起こさぬ内にと心にきめ、平成六年三月三一日をもって、長い医業の歴史と、色々思い出を残して閉院致しました。

その後半年ほど休養致しておりましたところ、私の長女の主人からのすすめがございまして、本人が理事長をしている医療法人財団正清会の常勤理事として、アルツハイマーの方、老人性痴呆の方、シルバー病棟のご老人の方々の良き話し相手となり、自分なりに無理せず生涯現役のつもりで務めております。

さて、私、旧制岩手中学校第一回生として卒業し、第一号医師となったこと、昭和五三年一月三〇日には読売新聞社より全国第六回医療功労賞を受賞し、また昭和五六年四月二十九日晴れて勲五等雙光旭日章を受章、宮中に参殿したこと等を思いおこしている今日この頃でございます。

(叙勲にさいし)

齡古希 叙勲を受けし 春うらら。

(閉院にさいし)

白菊や 八十路を越えて 無為の日日。

私事を中心にペンを進めましたが、この折に一回生のことを述べます。

残り数少ない一回生の集まりですが、松見

得明先生、遠藤貫中先生、太田代俊雄氏が中心となり、毎年同級会を開催しており、また石桜一回生同級会々報を今でも発行し、近況

を知る楽しみのひとつでございます。終わりになりましたが、母校の益々の隆昌発展をお祈り申し上げます。